

第5章

進路選択プロセスにおける男女差について

遠藤 健

【ポイント】

- 本章は、進路選択プロセスにおける男女差に着目した。その結果、従来指摘されてきた職業・進路形成の男女差が確認できた。具体的には、男子であれば、理系の大学・学部を志望し、将来的には、技術者を目指す割合が高く、女子であれば、医療系の大学・学部を志望し、保健師・看護師などの医療職を目指す割合が高い。
- 進路選択における悩みの分析からは、高校1年生から2年生にかけての推移から、女子の方がやや成熟していることがうかがえる。自身の適性や就きたい職業が明確になることで、自身に必要な進路の情報収集方法や情報の不足について悩む段階に進んでいると解釈できる。
- 他方で、女子の方が進学にあたって経済面を考慮している傾向にある。「希望する進路に進むには、お金がかかること」では25%程度が悩みとしてあげていた（男子は10%程度）。

1. はじめに

本章は、鳥取県高校生調査から得られたデータをもとに、男女差に着目することで双方の進路選択がどのように形成されているのかを明らかにする。

日本における大学進学機会の地域間の不平等については、教育社会学を中心に研究蓄積があり、同時に男女差においても大学進学機会の不平等があることは明らかにされている。特に地方に生まれ育った女子であるほど、大学進学において相対的に不利な状況にある（寺町 2022）。また、大学進学においても、合格可能性の高い進学先よりも、看護や教育といった領域へ「下降」選択をする傾向にあることが指摘されている（伊佐 2022）。このような背景には、保護者の男子への教育投資・教育期待が高い（女子のそれが低い）ことや、将来的な安定志向が関係しているものとも考えられる。

他方で、社会政策や個々の大学の取組みとして、ジェンダーギャップの解消の観点から理系の女子枠を導入する大学が増加しており、地方女子の相対的な進学不利な状況を社会課題として解決しようと試みる動きもある（例えば、#YourChoiceProject）。

これらの政策や実践の評価は、寄って立つ理念、規範に依存するが、まずは高校生活を通して、進路意識、希望がいかにより形成されているのかを、男女という観点からモノグラフ的に記述し、実態を俯瞰する必要があるだろう。特に、本報告書で得られるようなパネルデータは個人内の変化を捉えられる特徴を有することから、シンプルに2時点までの変化を男女ごとに捉え、それぞれの特徴を明らかにしていきたい。なお、性別は、36件の「答えたくない」との回答があるが、本章では除いた。もちろん、性的マイノリティーや性指向の問題を研究的、実務的に検討していくことは重要であるが、本章の目的とは異なるので、その点をご考慮いただきたい。また、本文中の図表の度数については、付録として最後に掲載している。

節構成は以下の通りである。現在データが取得できている Wave1（高校1年時）と Wave（高校2年時）を用いて、高校入学までの経験と意識（2）、高校での学習状況（3）、職業観（4）、進路選択で重視すること（5）、進路選択の悩みと保護者の期待（6）の観点から男女間で比較、記述していく。なお、以降は Wave1 を w1、Wave2 を w2 と表記する。

2. 高校入学までの経験と意識

本節では、高校入学までの経験と意識について見ていく。まず、小学生の頃どのような経験をしていたのか①旅行に行く～⑨習い事に行くについて見た結果を男女ごとに示す（図5-1）。なお、図中では「ほとんどない」の選択肢を省略している。

結果は、男女問わず、⑨野外で遊ぶ、⑫習い事に行く、⑤マンガや雑誌を読む経験は、多くの生徒が経験している。男女差という点では、③博物館に行く、④スポーツ観戦に行く、⑦科学に関する本を読む、⑩スポーツクラブに行く、⑪ゲームをするでは男子の方が女子より多く経験している。一方、①旅行に行く、⑥文学作品を読む、⑫習い事に行くでは女子の方が男子より多く経験している割合が高い。男子は、スポーツなどの身体活動経験とゲームを、女子は

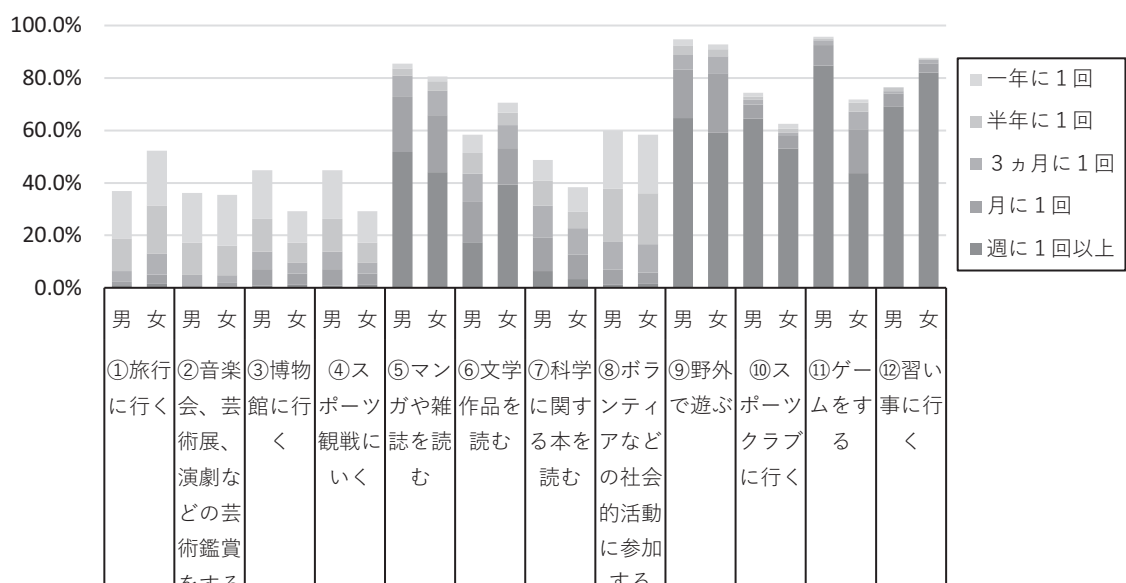


図5—1 小学生の頃の経験（男女別）

※「ほとんどない」の割合は省略

文学作品を読んだり、習い事など、より認知的な活動を経験している。ただし、男子においても③博物館に行く経験、⑦科学に関する本を読む経験がより高い。

次に、なぜ現在の高校に進学したのかを尋ねた項目について見る。図5—2の1～12の項目を複数選択する設問である。

まず、全体的に「6. 自分の学力に合っていたから」や「11. 進学校だから」を選択する割合が半数程度である。男女差という点では、男子は「5. 所属したい部活動があるから」が唯一女子よりも高い。女子は、「11. 進学校だから」で男子よりも8.6%高く、「2. 幅広い教養を身につけたいから」では6.4%高い。「1. 校風が自分に合っていると思ったから」についても5.2%

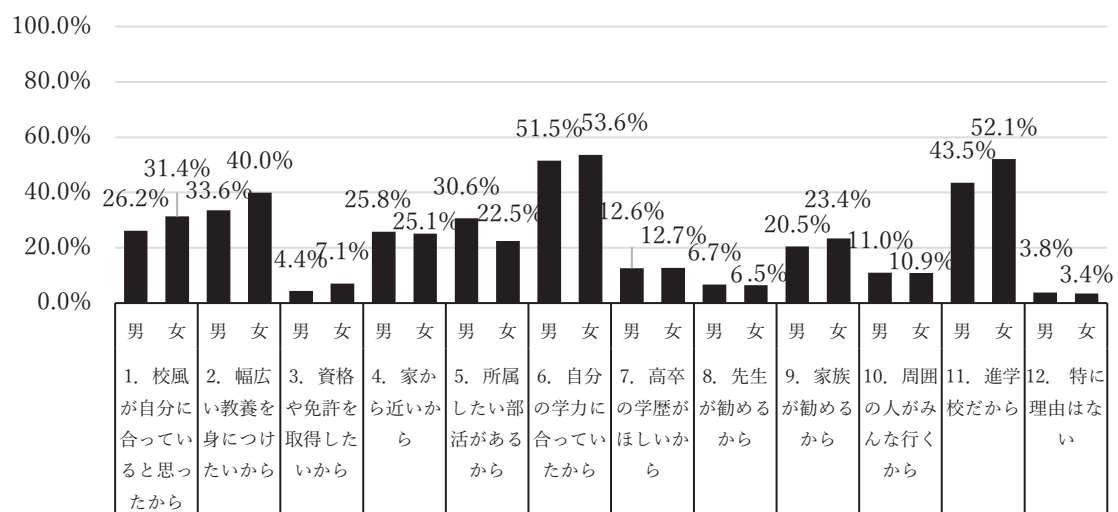


図5—2 高校選択理由（複数回答）

男子よりも高く、高校進学段階で自身の進路選択をより熟慮し、意味付けをしていることがうかがえる。

3. 高校での学習状況

本節では、高校での学習状況（図5—3）を見ていく。ここでは w1 と w2、すなわち高校1年時から2年時までの推移も合せて示す。男子では、35%程度が学習塾に通っており、2年間で変化はあまりない。女子では、w1 で38.0%、w2 で42.7%と男子と比べ高く、かつ上昇している。

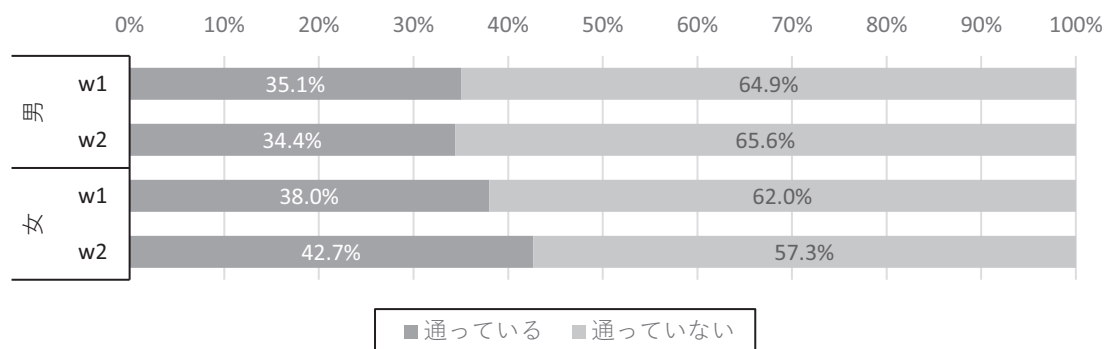


図5—3 学習塾の経験

次に、平日1日あたりの学習時間（学校の授業を除く、塾等は含む）の結果（図5—4）を見る。調査時期による影響が考えられ、「1時間以内」の割合が男女ともに w1 から w2 にかけて増加している。すなわち全体的に自主的な学習時間が減少している。男女差に注目すると、いずれの時点でも女子の方が男子よりも1時間以上自主的な学習をしている。ただし、男子のw2では「3時間以上」の割合が5.7%と女子より多い。

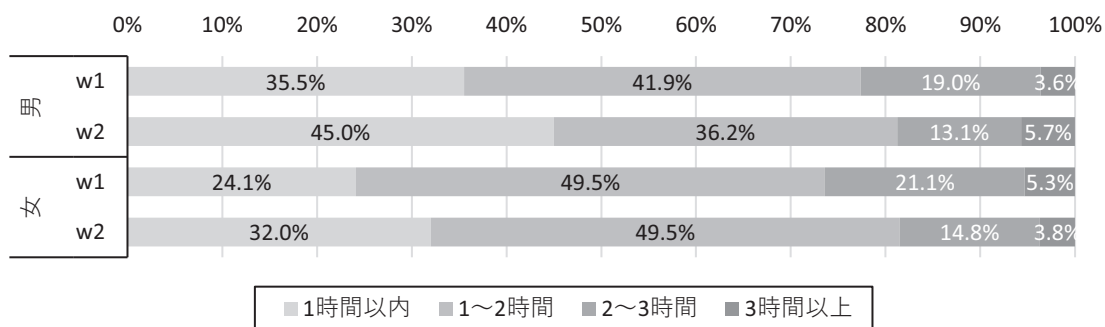


図5—4 平日1日あたりの学習時間

次に、高校での成績（自己認識）について尋ねた結果（図5—5）を見る。w1 から w2 にかけて5～7の割合が男女ともに上昇している。この回答が学校での相対的な位置だとすれば、より上方修正されたと言えよう。男子ではいずれの時点でも1と7の割合が女子よりも多く、今回のデータ内では、やや成績が分散しており、女子は真ん中により集中する傾向にある。

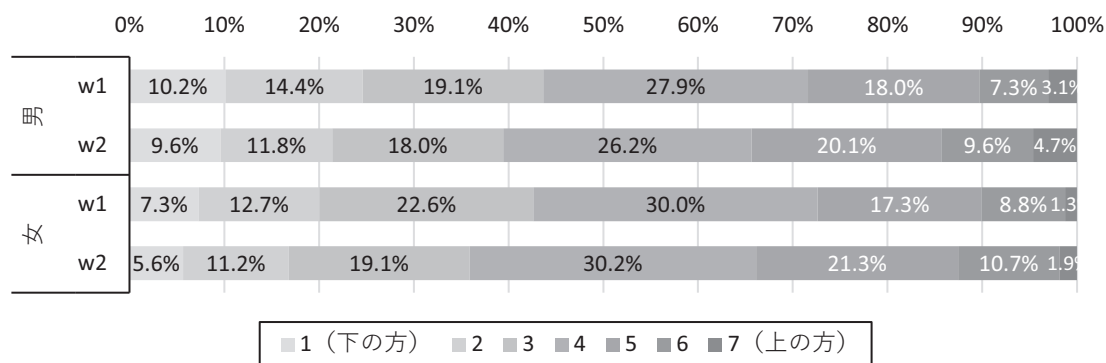


図5—5 高校での成績（自己認識）

4. 職業観

ここでは、生徒の職業観について見ていく（表5—1）。具体的に、将来就きたい職業（第1希望）について1～24まで設け（22と23はそれぞれw1、w2のみ）選択する方法で回答を得た。

「24. 特に就きたい職業はない」はw1では1～2割程度であったが、w2では1割強に減少している。この間、職業観がより明確になってきていることがうかがえるが、男女差という点では、男子の方が女子に比べ高い。

具体的な選択肢のなかで、全体的に高いものは、「6. 薬剤師、保健師、助産師、看護師、医療従事者、栄養士、指圧師、鍼灸師」といった医療系の専門職と、「10. 教員」である。

男女差という点では複数の項目で差が確認できる。特に、「6. 薬剤師、保健師、助産師、看護師、医療従事者、栄養士、指圧師、鍼灸師」では女子の割合がw2で3割程度になり、男子の3倍となっている点に特徴がある。逆に男子が女子よりも高いのは「13. 国家公務員、地方公務員」や「4. （食品、電気、機械、金属、化学、建設、IT、SEなどの）技術者」である。女子の方がある程度職業を早くからイメージ出来ており、かつ医療系への就職を男子より想定していることが明らかになった。

次に、職業を選択するにあたって、どのようなことが重要だと考えるか①～⑨それぞれ尋ねた結果について見る。なお、回答は4件法で尋ねており、図5—6では「あまり重要ではない」、「全く重要でない」の回答結果は省略している。

全体的な傾向として「とても重要だ」の結果から、「②自分の能力が活かせること」「③安定していること」が60～70%程度と高い。それらに比べると、「⑤働く時間や日数が短いこと」や「⑥仕事が楽なこと」は低い。

表5—1 将来就きたい職業（第1希望）

		1. 国会・地方議員	2. 企業の経営者	3. 研究者	4. (食品、電気、機械、金属、化学、建築、IT、SEなどの) 技術者	5. 医師、歯科医師、獣医師	6. 薬剤師、保健師、助産師、看護師、医療技術者、栄養士、指圧師、鍼灸師	7. (福祉相談員や保育士などの) 社会福祉専門職業従事者	8. (裁判官、検察官、弁護士、弁理士、司法書士などの) 法務従事者	
男性	w1	0.4%	4.9%	4.2%	9.5%	8.2%	8.8%	0.6%	0.9%	
	w2	1.0%	5.0%	3.2%	9.8%	6.6%	10.0%	0.7%	1.2%	
女性	w1	0.5%	1.8%	1.8%	4.0%	6.6%	26.1%	4.5%	1.3%	
	w2	0.4%	1.4%	2.0%	5.4%	4.9%	29.0%	3.6%	1.8%	
		9. 公認会計士、税理士、社会保険労務士	10. (幼・小・中・高・特別支援などの学校の) 教員	11. 小説家、芸術家、音楽家、俳優	12. 図書館司書、学芸員	13. 国家公務員、地方公務員	14. 民間企業の社員	15. (販売店、小売店、卸売店、保険代理店、不動産屋などの) 店主・店員	16. 介護職員、理容師、美容師、調理師、飲食店主、旅館主、居住施設管理人	
男性	w1	1.2%	8.3%	3.6%	1.2%	10.1%	7.3%	0.6%	0.9%	
	w2	2.2%	9.7%	2.1%	0.4%	11.7%	5.6%	1.6%	1.6%	
女性	w1	0.9%	10.9%	4.1%	2.3%	4.8%	10.8%	2.1%	3.2%	
	w2	1.5%	11.4%	2.9%	1.5%	7.5%	7.8%	1.5%	4.3%	
		17. 自衛官、警察官、海上保安官、看守、消防員、警備員	18. 農家、養畜家、植木職、造園師、育林家、漁師、水産養殖家	19. 工場作業員、修理工、検査工、塗装工	20. 鉄道・バス・トラック・タクシー・船舶・航空機の運転(操縦)士	21. 大工、左官、畳工、配管工、内装工、電気工事作業員、土木作業員、採鉱員	22. 運搬作業員、清掃員、包装作業員	23. その他	24. 特に就きたい職業はない	合計
男性	w1	4.2%	1.0%	0.3%	1.3%	0.7%	0.1%	21.6%		100.0%
	w2	3.8%	1.2%	0.3%	0.9%	1.9%	0.9%			100.0%
女性	w1	0.9%	0.1%	0.1%	0.3%	0.3%	0.0%	12.6%		100.0%
	w2	0.5%	0.5%	0.0%	0.1%	0.0%	0.6%			100.0%

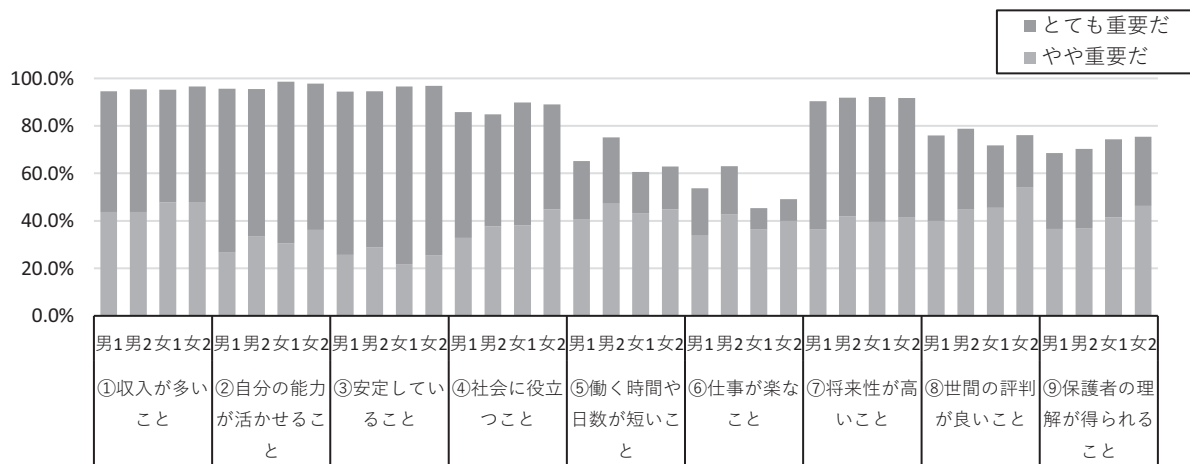


図5—6 職業選択にあたって重視すること

※「全く重要でない」、「あまり重要ではない」の回答結果は省略

男女差という点では、「③安定していること」や「④社会に役立つこと」、「⑨保護者の理解が得られること」で差は決して大きくないが、女子のほうが男子よりも、より重要だと思っている。一方、男子は、「⑤働く時間や日数が短いこと」や「⑥仕事之乐なこと」を女子よりも重要だと思っている。特に w2 時点で肯定的な回答が増加している点の特徴である。w1 時点では、「⑧世間の評判が良いこと」で男子が女子よりも高い。

5. 進路選択で重視すること

本節では、進路選択で重視することと悩みについて見ていく。ここでは①～⑩についてそれぞれ4件法で尋ねた。なお、図5—7、図5—8では「あまりあてはまらない」、「全くあてはまらない」の割合は省略している。

全体的には、「③専攻したい学問分野がある」や「②入試科目・選抜方法があっている」、「①入試の難易度があっている」、「⑦校風やキャンパスの雰囲気がよい」、「⑧就職のための支援が充実している」、「⑩施設・設備がよい」をより重視している傾向にある。これらは時点間での大きな変化はない。

男女差という点では、男子では「⑤総合大学である」や「⑥伝統や知名度がある」、「⑫大都市にある」、「⑬自分の入りたいクラブ・サークルがある」、「⑮親元を離れられる」で女子よりも高い傾向にある。一方、女子では、「⑦校風やキャンパスの雰囲気がよい」や「⑧就職のための支援が充実している」、「⑭授業料が安い」、「⑯資格・免許がとれる」で男子よりも高い傾向にある。

なお時点間の変化では、「⑪自宅から通える」が男女ともに減少し、「⑮親元を離れられる」が男女ともに増加しており、この間、離家志向がやや上昇していた。

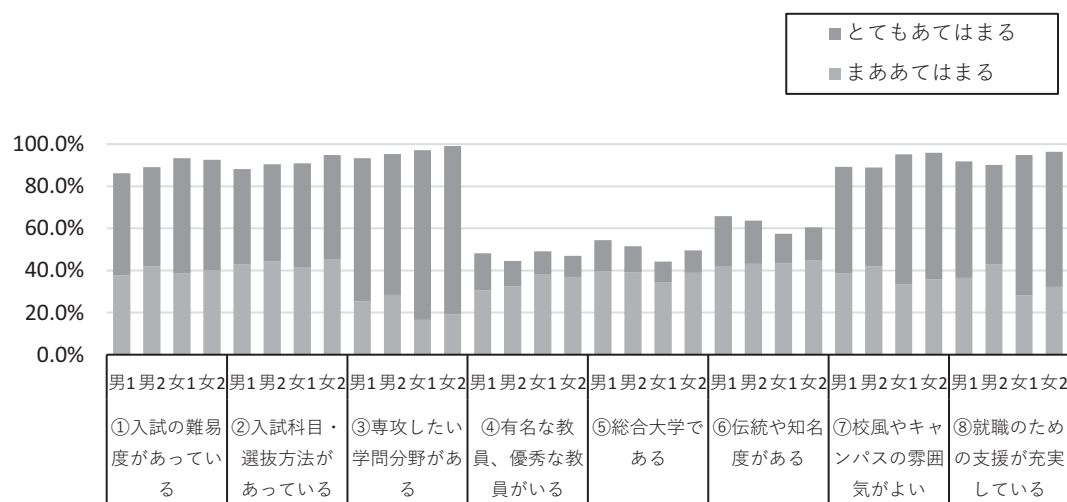


図5—7 進学時に重視すること（1）

※「全くあてはまらない」、「あまりあてはまらない」の割合は省略

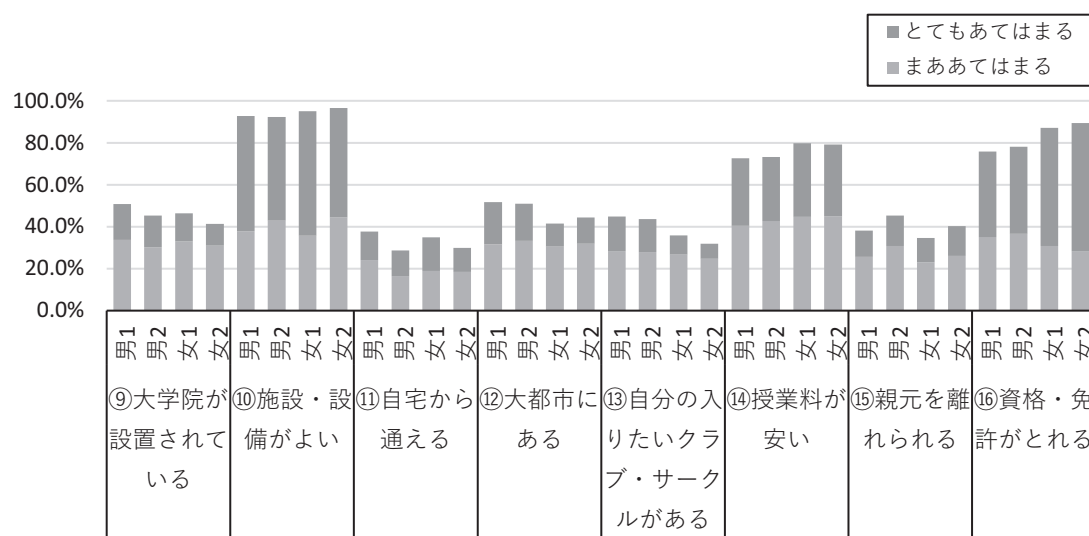


図5—8 進学時に重視すること（2）

※「全くあてはまらない」、「あまりあてはまらない」の割合は省略

6. 進路選択の悩みと保護者の期待

本節では、進路選択の悩みと保護者の期待について見ていく。進路選択の悩みについては図5—9の1～11の項目について、それぞれ当てはまる割合を示している。

ここでは時点、男女の差が確認できる。まず、w1の「4. 自分の適性（向き不向き）がわからないこと」と「5. 自分の進みたい専門分野がわからないこと」はw2になると男女ともに減少する。一方で、「6. 希望する進路に進むには、学力レベルが十分ではないこと」が男女ともに上昇する。1年時から2年時にかけて少しずつ自身の適性と大学等で何を学ぶかの検討が進み、代わって希望する進路に進むための学力不足が悩みとして浮上する。とはいえ、「1. 自分の就きたい職業がわからないこと」は男女ともに4割強が進路選択の上での悩みとして回答し、w2にかけて減少はしない。

男女差という点では、全体的に女子の方が男子よりも悩んでいる割合が高い。上述した「4. 自分の適性（向き不向き）がわからないこと」と「5. 自分の進みたい専門分野がわからないこと」は学年が進むと減少するが、女子の方が男子よりも高い。それゆえ、「7. 進路の情報の集め方がわからない」や「8. 進路の情報が不足していること」も男子よりも高い結果となると解釈できる。先に、1年時から2年時にかけて少しずつ自身の適性と大学等で何を学ぶかの検討が進むと述べた通り、進路がより明確になったからこそ、情報収集の方法、あるいは必要な情報そのものの不足が理解される（＝メタ認知の獲得）というパスが想定される。

また、「9. 希望する進路に進むには、お金がかかること」ではw1、w2いずれでも女子の方が男子よりも高く、増減はそれほどない。自身の適性や希望する専門分野、学力といった問題とは別に、この進学校を対象とした生徒のデータからは経済的な側面を女子の方が気にしている。

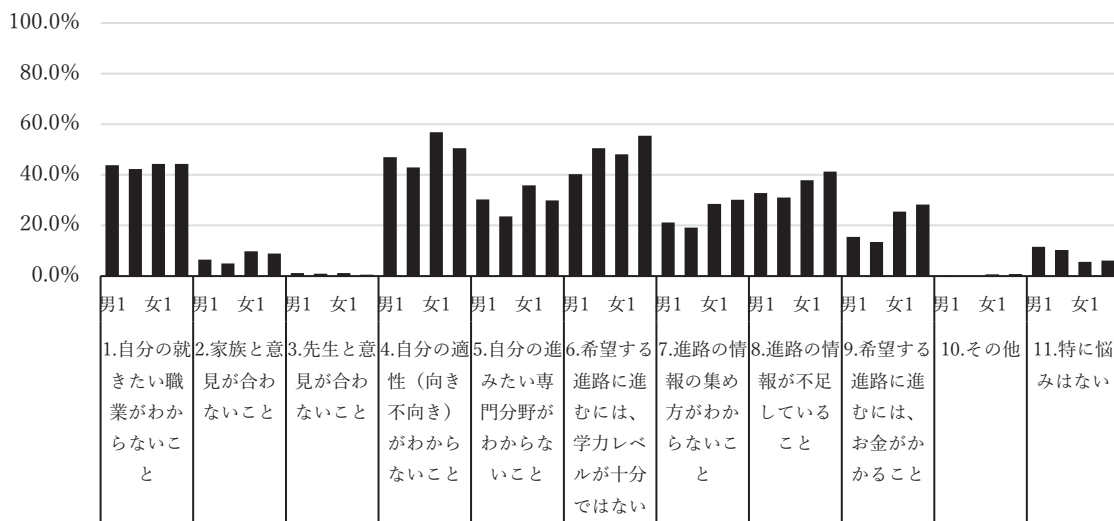


図5—9 進路選択の悩み（複数回答）

次に、保護者からの期待について見ていく。項目は図5—10の①～⑩であり、それぞれ4件法で尋ねている。図5—10では「あまり期待されていない」と「全く期待されていない」の回答を省略した。また、ここでの保護者からの期待は、正確には、あくまで生徒本人が保護者から期待されていると認識しているか、その程度のことである。

まず全体的な傾向として、「④あなたの学びたい学部・学科に進学すること」を9割以上の生徒は期待されていると捉えている。生徒当人の意思を尊重してくれるという想定が多く的高校生にはあると理解できよう。一方で、「②現役で合格すること」や「⑦就職に繋がる学校に進学すること」、「⑩安定した仕事に就くこと」などの期待があると生徒たちは捉えている。これからw3、すなわち高校3年生や受験を経験するなかで、④学びたい学部・学科に進学する vs ②現役で合格する・⑦就職に繋がる学校に進学する・⑩安定した仕事に就く、との葛藤が保護者を交えて展開されるとも考えられる。

次に男女差に着目すると、男子は女子よりも「①早く就職すること」や「③偏差値の高い学校に進学すること」、「⑧知名度の高い学校に進学すること」の項目でより保護者から期待されていると捉えている。③と⑧は伝統や威信の高い学校を目指すことが期待されていることと理解できるものの、①がなぜ男子ではより高いのかは、これからの検討課題である。一方、女子では「⑥奨学金を利用すること」が特にw2でより高くなっている。先述した進路選択における悩み同様、経済的な面での現実的な対応策として奨学金を利用することが家族からも期待されていると当人たちは捉えている。

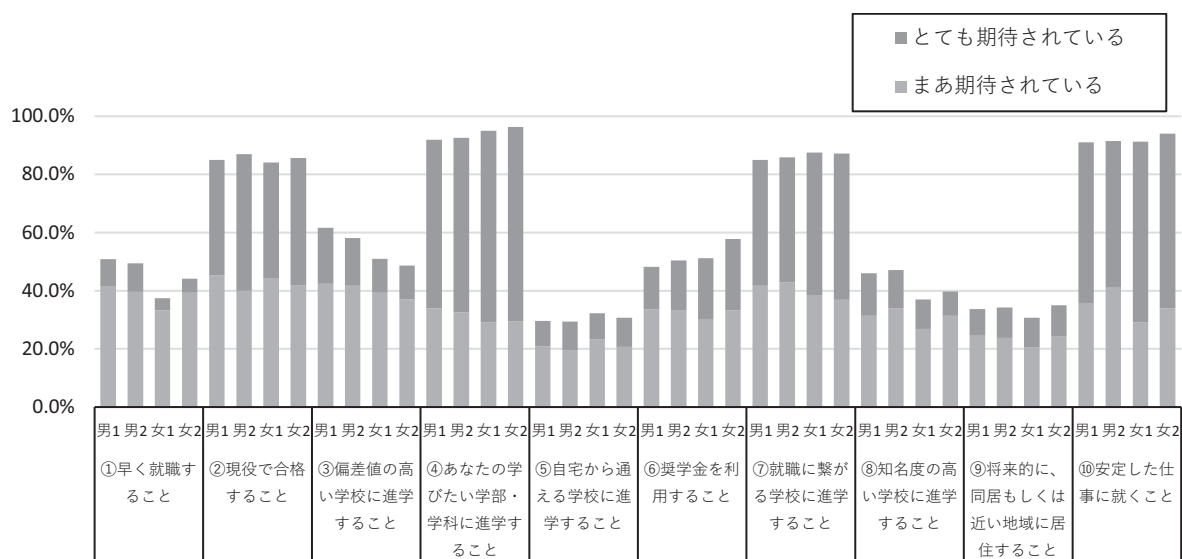


図5—10 保護者からの期待

※「全く期待されていない」、「あまり期待されていない」の回答は省略

最後に、現在の進学希望先を示す。図5—11では、w1、w2時点で単一選択の回答を、設置形態（国公立、私立）と分野（文系、理系、医療系、その他）、そして未定も含めた9類型を作成した。

一見して分かるように、「未定」を除くと9割以上が国公立志望である。男女差という点では、男子は理系を、女子は医療系をより希望している。また、未定の割合は、男女ともに20%程度から10%程度へと減少している。

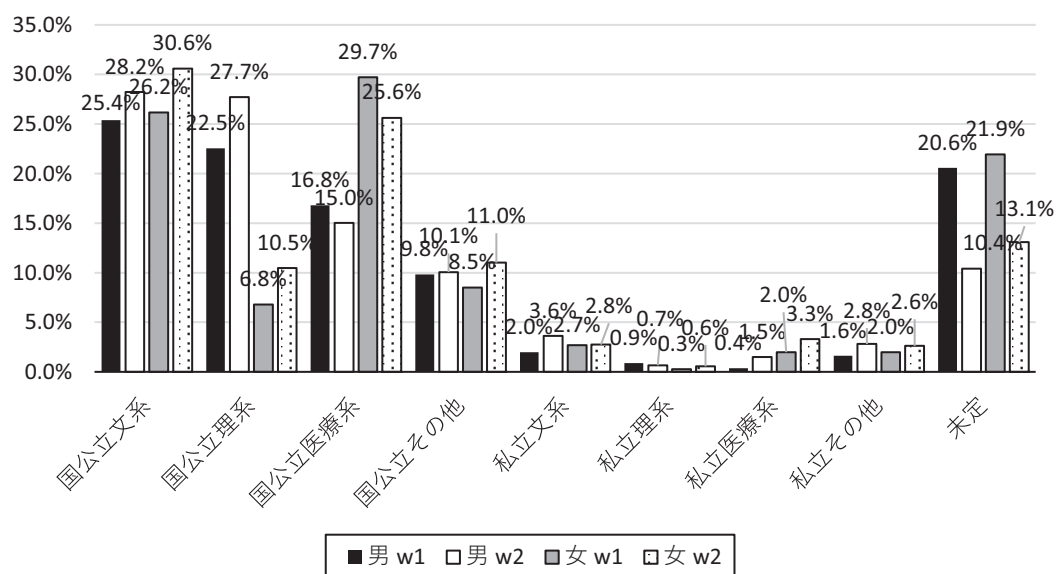


図5—11 進学希望先

7. まとめと考察

本章は、鳥取県高校生調査から得られたデータをもとに、男女差に着目することで男女双方の進路選択がどのように形成されているのかを明らかにすることを目的とした。得られた知見は3つに整理できる。

第一は、従来指摘されてきた職業・進路形成の男女差が確認できる。具体的には、男子であれば、理系の大学・学部を志望し、将来的には、技術者や公務員を目指す割合が高く、女子であれば、医療系の大学・学部を志望し、保健師・看護師などの医療職を目指す割合が高い。文系理系と捉えられがちな大学の専攻だが、医療系を含めて検討することでより男女差の構造がクリアになった。

第二は、進路選択という点では、w1 と w2 の推移から、女子の方がやや成熟していることがうかがえる。自身の適性や就きたい職業が明確になることで、自身に必要な進路の情報収集方法や情報の不足について悩む段階に進んでいると解釈できる。

第三は、他方で、女子の方が進学にあたって経済面を考慮している傾向にある。志望大学のタイプの分析で明らかにしたように、ほとんどが国公立大学を志望しているなかで、鳥取県、あるいは隣接する島根県のみでは、これら志望者すべてを収容できる十分な定員はない。それゆえ、県外の私立大学への進学をせざる得ない生徒が構造的に生じることになるが、その時に生徒含め保護者がどのような判断をするのか、男女差という観点から注意深く見ていく必要があるだろう。

本章では、まずは高校2年生までの推移を見てきたが、3年時あるいは進路決定後の情報と合わせることで、従来指摘されてきた大学進学機会の男女差をより深く理解できることに繋がるだろう。進路選択における個人差と考えられていたものが、客観的に性差として構造的に生じていれば、それは社会課題として介入し、改善していく手がかりとなる。

【文献】

伊佐夏実, 2022, 「難関大に進学する女子はなぜ少ないのか—難関高校出身者に焦点をあてたジェンダーによる進路分化のメカニズム」『教育社会学研究』109: 5-27.

寺町晋哉, 2022, 「大学進学における『地方』と『性別』の『足枷』」『学術の動向』27 (10) : 76-83.

YourChoiceProject, n. d., (2025 年 3 月 14 日取得, <https://yourchoiceproject.com/>)

〔付録〕本文中図表の度数

付録表 1 (図 5—1 小学生の頃の経験 (男女別))

		週に1回 以上	月に1回	3ヵ月に 1回	半年に1 回	一年に1 回	ほとんど ない	合計
①旅行に行く	男	8	11	31	96	141	490	777
	女	13	31	70	159	181	414	868
②音楽会、芸術展、演劇 などの芸術鑑賞をする	男	2	6	30	96	147	495	776
	女	5	11	26	97	168	561	868
③博物館に行く	男	7	48	52	96	144	427	774
	女	10	37	37	65	104	614	867
④スポーツ観戦に行く	男	7	48	52	96	144	427	774
	女	10	37	37	65	104	614	867
⑤マンガや雑誌を読む	男	402	163	63	21	14	113	776
	女	383	189	81	31	16	169	869
⑥文学作品を読む	男	134	119	84	61	54	322	774
	女	341	121	76	41	33	255	867
⑦科学に関する本を読む	男	49	99	94	74	61	397	774
	女	29	80	88	54	81	534	866
⑧ボランティアなどの社 会的活動に参加する	男	9	45	82	157	171	312	776
	女	13	37	94	167	193	360	864
⑨野外で遊ぶ	男	504	144	43	29	18	41	779
	女	513	197	56	24	15	63	868
⑩スポーツクラブに行く	男	501	42	14	9	12	199	777
	女	461	41	12	12	16	325	867
⑪ゲームをする	男	660	61	14	6	5	33	779
	女	378	145	58	29	11	244	865
⑫習い事に行く	男	537	40	6	10	3	182	778
	女	711	30	12	4	2	107	866

付録表 2 (図 5—2 高校選択理由 (複数回答))

		非該当	該当	合計
1. 校風が自分に合っていると思ったから	男	576	204	780
	女	599	274	873
2. 幅広い教養を身につけたいから	男	518	262	780
	女	524	349	873
3. 資格や免許を取得したいから	男	746	34	780
	女	811	62	873
4. 家から近いから	男	579	201	780
	女	654	219	873
5. 所属したい部活があるから	男	541	239	780
	女	677	196	873
6. 自分の学力に合っていたから	男	378	402	780
	女	405	468	873
7. 高卒の学歴がほしいから	男	682	98	780
	女	762	111	873
8. 先生が勧めるから	男	728	52	780
	女	816	57	873
9. 家族が勧めるから	男	620	160	780
	女	669	204	873
10. 周囲の人がみんな行くから	男	694	86	780
	女	778	95	873
11. 進学校だから	男	441	339	780
	女	418	455	873
12. 特に理由はない	男	750	30	780
	女	843	30	873

付録表 3 (図 5—3 学習塾の経験)

		通っている	通っていない	合計
男	w1	241	446	687
	w2	234	446	680
女	w1	301	491	792
	w2	340	457	797

付録表 4 (図 5—4 平日 1 日あたりの学習時間)

		1 時間以内	1～2 時間	2～3 時間	3 時間以上	合計
男	w1	245	289	131	25	690
	w2	309	249	90	39	687
女	w1	191	392	167	42	792
	w2	256	396	118	30	800

付録表 5 (図 5—5 高校での成績 (自己認識))

		1 (下の方)	2	3	4	5	6	7 (上の方)	合計
男	w1	70	99	131	192	124	50	21	687
	w2	66	81	124	180	138	66	32	687
女	w1	58	101	179	238	137	70	10	793
	w2	45	89	152	241	170	85	15	797

付録表 6 (表 5—1 将来就きたい職業 (第 1 希望))

		1. 国会・地方議員	2. 企業の経営者	3. 研究者	4. (食品、電気、機械、金属、化学、建築、IT、SE などの) 技術者	5. 医師、歯科医師、獣医師	6. 薬剤師、保健師、助産師、看護師、医療技術者、栄養士、指圧師、鍼灸師	7. (福祉相談員や保育士などの) 社会福祉専門職業従事者	8. (裁判官、検察官、弁護士、弁理士、司法書士などの) 法務従事者
男性	w1	3	33	28	64	55	59	4	6
	w2	7	34	22	67	45	68	5	8
女性	w1	4	14	14	31	51	203	35	10
	w2	10	45	38	110	84	299	34	22

		9. 公認会計士、税理士、社会保険労務士	10. (幼・小・中・高・特別支援などの学校の) 教員	11. 小説家、芸術家、音楽家、俳優	12. 図 5—書館司書、学芸員	13. 国家公務員、地方公務員	14. 民間企業の社員	15. (販売店、小売店、卸売店、保険代理店、不動産屋などの) 店主・店員	16. 介護職員、理容師、美容師、調理師、飲食店主、旅館主、居住施設管理人
男性	w1	8	56	24	8	68	49	4	6
	w2	15	66	14	3	80	38	11	11
女性	w1	7	85	32	18	37	84	16	25
	w2	27	157	37	15	60	62	12	34

付録表 6 (表 5—1 将来就きたい職業 (第 1 希望)) (続き)

		17. 自衛官、警察官、海上保安官、看守、消防員、警備員	18. 農家、養畜家、植木職、造園師、育林家、漁師、水産養殖家	19. 工場作業員、修理工、検査工、塗装工	20. 鉄道・バス・トラック・タクシー・船舶・航空機の運転(操縦)士	21. 大工、左官、畳工、配管工、内装工、電気工事作業員、土木作業員、採鉱員	22. 運搬作業員、清掃員、包装作業員	23. その他	24. 特に就きたい職業はない	合計
男性	w1	28	7	2	9	5	1	6	145	672
	w2	26	8	2	6	13			126	681
女性	w1	7	1	1	2	2	0	5	98	777
	w2	4	4	0	1	0			90	796

付録表 7 (図 5—6 職業選択にあたって重視すること)

		とても重要だ	やや重要だ	あまり重要でない	全く重要でない	合計
①収入が多いこと	男 1	349	300	22	15	686
	男 2	352	299	28	4	683
	女 1	374	378	32	6	790
	女 2	388	383	25	2	798
②自分の能力が活かせること	男 1	473	182	22	8	685
	男 2	423	228	28	3	682
	女 1	538	242	9	2	791
	女 2	491	289	16	1	797
③安定していること	男 1	472	176	24	14	686
	男 2	449	197	30	7	683
	女 1	589	172	23	4	788
	女 2	568	203	24	1	796
④社会に役立つこと	男 1	362	224	71	26	683
	男 2	322	257	83	20	682
	女 1	407	300	72	8	787
	女 2	352	356	80	7	795
⑤働く時間や日数が短いこと	男 1	168	275	189	47	679
	男 2	188	323	149	20	680
	女 1	138	339	270	40	787
	女 2	143	356	263	31	793
⑥仕事が楽なこと	男 1	133	231	246	68	678
	男 2	138	291	219	33	681
	女 1	71	286	362	67	786
	女 2	73	317	334	70	794
⑦将来性が高いこと	男 1	367	246	42	23	678
	男 2	341	285	49	6	681
	女 1	414	312	51	11	788
	女 2	400	331	62	4	797
⑧世間の評判が良いこと	男 1	244	271	102	61	678
	男 2	231	306	122	22	681
	女 1	207	359	194	28	788
	女 2	176	428	151	38	793
⑨保護者の理解が得られること	男 1	216	247	129	84	676
	男 2	228	250	132	70	680
	女 1	259	325	155	46	785
	女 2	231	367	158	37	793

付録表 8 (図 5—7、図 5—8 進学時に重視すること)

		とてもあては まる	まああてはま る	あまりあては まらない	全くあてはま らない	合計
①入試の難易度が あっている	男 1	276	215	61	18	570
	男 2	288	256	57	10	611
	女 1	389	276	44	4	713
	女 2	396	301	52	4	753
②入試科目・選抜 方法があっている	男 1	258	246	53	15	572
	男 2	282	269	49	9	609
	女 1	350	296	55	10	711
	女 2	372	342	36	3	753
③専攻したい学問 分野がある	男 1	388	145	32	6	571
	男 2	408	173	25	4	610
	女 1	573	118	20	1	712
	女 2	600	144	7	0	751
④有名な教員、優 秀な教員がいる	男 1	100	173	195	98	566
	男 2	74	197	246	92	609
	女 1	76	272	273	89	710
	女 2	75	277	314	84	750
⑤総合大学である	男 1	84	225	185	74	568
	男 2	75	239	233	62	609
	女 1	69	243	309	85	706
	女 2	80	293	306	73	752
⑥伝統や知名度が ある	男 1	137	238	132	63	570
	男 2	125	262	171	50	608
	女 1	99	309	234	68	710
	女 2	119	335	253	43	750
⑦校風やキャンパ スの雰囲気がよい	男 1	288	222	44	18	572
	男 2	287	256	55	13	611
	女 1	440	236	24	11	711
	女 2	451	270	26	5	752
⑧就職のための支 援が充実している	男 1	316	208	32	15	571
	男 2	287	262	49	11	609
	女 1	475	201	31	6	713
	女 2	484	242	23	4	753
⑨大学院が設置さ れている	男 1	97	191	201	78	567
	男 2	92	184	241	92	609
	女 1	95	233	299	81	708
	女 2	78	232	332	108	750
⑩施設・設備がよ い	男 1	312	215	30	11	568
	男 2	303	262	39	8	612
	女 1	422	254	27	8	711
	女 2	391	332	20	6	749
⑪自宅から通える	男 1	77	137	204	150	568
	男 2	75	100	238	196	609
	女 1	113	134	250	210	707
	女 2	86	139	266	260	751
⑫大都市にある	男 1	114	180	183	92	569
	男 2	108	202	212	86	608
	女 1	78	217	285	131	711
	女 2	94	240	289	129	752

⑬自分の入りたい クラブ・サークル がある	男 1	93	161	194	119	567
	男 2	95	170	234	109	608
	女 1	66	189	291	164	710
	女 2	54	185	339	171	749
⑭授業料が安い	男 1	184	230	100	56	570
	男 2	185	260	119	44	608
	女 1	249	317	110	34	710
	女 2	257	338	121	36	752
⑮親元を離れられ る	男 1	71	146	233	119	569
	男 2	88	187	213	119	607
	女 1	82	164	286	178	710
	女 2	107	196	283	165	751
⑯資格・免許がと れる	男 1	230	199	102	35	566
	男 2	252	222	105	28	607
	女 1	399	219	75	17	710
	女 2	458	213	66	13	750

付録表 9 (図 5—9 進路選択の悩み (複数回答))

		非該当	該当	合計			非該当	該当	合計
1. 自分の就きたい 職業がわからないこと	男 1	384	299	683	7. 進路の情報 の集め方がわ からないこと	男 1	538	145	683
	男 2	394	289	683		男 2	552	131	683
	女 1	440	351	791		女 1	565	226	791
	女 2	445	354	799		女 2	558	241	799
2. 家族と意見が 合わないこと	男 1	639	44	683	8. 進路の情報 が不足してい ること	男 1	459	224	683
	男 2	649	34	683		男 2	471	212	683
	女 1	714	77	791		女 1	491	300	791
	女 2	728	71	799		女 2	469	330	799
3. 先生と意見が 合わないこと	男 1	675	8	683	9. 希望する進 路に進むこ は、お金がか かること	男 1	577	106	683
	男 2	677	6	683		男 2	591	92	683
	女 1	782	9	791		女 1	589	202	791
	女 2	795	4	799		女 2	573	226	799
4. 自分の適性 (向き不向き) がわからないこ と	男 1	362	321	683	10. その他	男 1	682	1	683
	男 2	390	293	683		男 2	790	1	791
	女 1	341	450	791		女 1	684	5	689
	女 2	395	404	799		女 2	795	6	801
5. 自分の進みたい 専門分野がわ からないこと	男 1	476	207	683	11. 特に悩み はない	男 1	604	79	683
	男 2	522	161	683		男 2	613	70	683
	女 1	507	284	791		女 1	747	44	791
	女 2	560	239	799		女 2	750	49	799
6. 希望する進路 に進むには、学 力レベルが十分 ではないこと	男 1	408	275	683					
	男 2	338	345	683					
	女 1	410	381	791					
	女 2	356	443	799					

付録表 10 (図 5—10 保護者からの期待)

		とても期待さ れている	まあ期待され ている	あまり期待さ れていない	全く期待され ていない	合計
①早く就職する こと	男 1	62	277	232	95	666
	男 2	66	265	259	79	669
	女 1	32	256	367	115	770
	女 2	38	310	332	108	788
②現役で合格す ること	男 1	266	304	73	28	671
	男 2	317	270	71	17	675
	女 1	308	341	94	29	772
	女 2	346	331	91	22	790
③偏差値の高い 学校に進学する こと	男 1	129	282	196	59	666
	男 2	110	280	210	71	671
	女 1	90	303	295	83	771
	女 2	92	292	312	93	789
④あなたの学び たい学部・学科 に進学すること	男 1	391	228	42	12	673
	男 2	405	220	37	13	675
	女 1	512	227	32	7	778
	女 2	529	234	23	6	792
⑤自宅から通え る学校に進学す ること	男 1	58	139	288	180	665
	男 2	66	132	283	192	673
	女 1	70	179	306	216	771
	女 2	79	163	321	224	787
⑥奨学金を利用 すること	男 1	95	218	219	117	649
	男 2	114	223	223	108	668
	女 1	158	229	258	111	756
	女 2	193	262	245	87	787
⑦就職に繋がる 学校に進学する こと	男 1	289	278	67	33	667
	男 2	288	288	77	18	671
	女 1	376	296	77	19	768
	女 2	398	291	84	17	790
⑧知名度の高い 学校に進学する こと	男 1	97	208	259	98	662
	男 2	88	228	248	106	670
	女 1	78	206	343	141	768
	女 2	66	248	347	128	789
⑨将来的に、同 居もしくは近い 地域に居住する こと	男 1	59	165	297	144	665
	男 2	70	159	277	163	669
	女 1	79	158	334	200	771
	女 2	85	191	314	197	787
⑩安定した仕事 に就くこと	男 1	368	239	40	20	667
	男 2	338	278	45	12	673
	女 1	478	225	55	12	770
	女 2	474	268	36	11	789

付録表 11 (図 5—11 進学希望先)

		国公立 文系	国公立 理系	国公立 医療系	国公立 その他	私立 文系	私立 理系	私立 医療系	私立 その他	未定	合計
男	w1	129	126	94	55	11	5	2	9	115	546
	w2	151	168	210	61	19	2	14	14	63	702
女	w1	149	48	91	60	22	4	9	17	155	555
	w2	170	76	186	80	20	4	24	19	95	674